

10/23 白杵市社会教育委員会議(研修)報告

白杵市 社会教育委員だより 第七号

10月23日、今年度第3回白杵市社会教育委員会議(研修)が、白杵市中央公民館視聴覚室で行われました。

講師に、未来応援コミュニティ

「room」ぶるーむ 代表 佐藤淳子(あつこさん)(写真左)をお招きし、前半は高校生との活動を通してテーマに、佐藤さんの活動についてお話をいただき、後半は「若い世代の学びの場、広報について」3つの班にわかれてグループワークを行い、協議を深めました。

研修の概要をご報告します。



□前半□ 講演「高校生生徒の活動を通して」

(資料・発言の一部を抜粋)

【活動拠点である坂ノ市地区の紹介】

人口約2万人。3小学校、1中学校、1高校、1大学。大分市でも珍しく15歳以下の子どもが増加している地域。

【未来応援コミュニティroomぶるーむの紹介】

他の仕事をしながら概ね50代の6人の仲間で3年前に結成。自分の持っている引き出し、本、読み聞かせ、助産師、田んぼづくり、お祭り好きをうまく活かしながら、代表佐藤さんの企画力、明るさ、人脈などを武器に精力的に活動。

★活動の三本柱

- 居場所(安心して過ごすことのできるスペース)
- 活動(ボランティア活動・体験活動・講座の企画)
- 主体性(高校生が主体性をもった活動につなげる)

★具体的な活動紹介

- 坂ノ市公民館主催「運動あそび」半年間、土曜に開催。
- 地元お祭りの期間中のこみ拾い「きくつとボランティア」
- 職場体験活動「養蜂家、米農家を訪ねよう」地元高校の学科を配慮。
- 地域の児童育成クラブ訪問
- ・高校生が企画「子どもたちにヘアアレンジ」
- ・学習支援ボランティア(夏休みの宿題サポート)
- 地域の人材づくりにつなげる「地元病院の理学療法士さんに高齢者についての話を伺う」。



□後半□ グループワーク

「若い世代の学びの場、広報について」

★活動の中での高校生エピソード
○宿泊体験を通し、苦手な朝を克服。今は自分の経験をもとに活動企画。
○自分の趣味を勇気を出して紹介することで共感してもらえたことが自信につながった。
○言葉より書くことが得意。書くことで考えを伝えられる。
活動を通して、誰かとつながることができる。この場所ならできると。大切に...

★活動の中で大切にしていること

- 非言語のコミュニケーション
- 否定しない
- やりたくない事はやらせない

後半は、参加者が3班にわかれ、以下の手順にそってグループワークを行いました。

<グループワークの手順>

- 1) テーマについて1つの問いを立て、それについて協議を深める。代表者が発表。
- 2) 各班の発表を聞き、興味を持った班へ移動。発展させた問いを設定し、さらに協議を深める。代表者が発表。

★各班の問・意見を一部抜粋。

詳しくは別紙「班別グループワークまとめ」参照。

【A班】

「若者が求めているものは？」

時間の調整(部活、受験など)、リテラシー教育、異世代交流、求めているものを知る為にアンケートをとる、学校を通してきっかけとなるものを考える。

「つながりへの道すじは？」

つながりを作る場がなかなか無い(責任を伴うから)なかではあるが、何に興味がありますか？と漠然と聞くのではなく、目の前に提示しないとわからない。今まで経験したことのないこと(皆で一緒にやるものなど)を考える。地元の高校への働きかけを行うてはどうか？

【B班】

「若者(小学生・高校生)はどどこで過ごしているのか？」

バイト。部活。野津庁舎(ゆるる)。塾。観光交流プラザ(Wi-Fi環境があるところ)。公民館は全世代の居場所である、はず。

「情報が多くてやりたいことが探せない。達成感を探すには？」

素晴らしい体験を体験できるようなものを提供する。(小さい団体だけではなく、団体同士のつながりを大切に準備)

指導・強制は×、経験・提供が○。それが共感・自発性につながる。

【C班】

「若い世代はそもそも学びに興味があるのか？」

情報が多岐にわたり選択肢が多すぎる。バーチャル上の情報を得ることも一つの学びではあるが、身近な学びの場に足が向いていないのでは？結果、人とのつながりの良さを経験したことがないのでは？

「どのように学びのリアルな場(機会)を提供すればよいか？」

社会体験の場を提供する。学校と地域との交流など。バイトやボランティア活動などを通して、人の役に立つ体験の場を提供してはどうか？

別紙

2024.10.23 第3回社会教育委員会議(研修)

班別 グループワークまとめ

【A 班】

Q問:『若者が求めているものは?』

どんな感覚、夢、願いを持っているか?

何に興味を持っている?

どういうコミュニケーションのやり方か?

地域の行事に誘い出すやり方は?

異世代交流の事例?小中高生の誘い方の違い?

【具体的案】

時間の調整(部活、受験など)

リテラシー教育

異世代交流

アンケートをとる

きっかけ作りを考える

学校を通して(生徒会、ユネスコ部との交流など)

Q問:『つながりへの道すじは?』

若い世代が求めているものはある?どう集約する?

地域への期待は?異世代交流を求めている?

つながりを作る場がない(責任を伴うからやろうとしない)→つながりがないから金銭トラブル等の事案が発生する

【具体的案】

求めているものは目の前に出されるまでわからない

やったことのない体験ができるものを

皆で一緒に何か行えるもの考える

地元高校生への営業

A班 若者が求めているものは?

アンケート(生徒会)
時間の調整(部活、受験)
学校を通じて
場づくり
リテラシー教育
自分が必要なのは、必要は情報と知識に押し出し、部活、活動でやる能力を育成するための取り組み

どんな感覚を
持っているか?

どんな夢や願いを
持っているか?

異世代交流を
目的とした
場の例は?

小・中・高生
の違いをどう
捉えているか?

地域への期待は
あるか?

若者が何を
求めているか?

つながりへの道すじは?

つながりを作る
場がない
(つながりは責任を
伴う)

異世代との
交流を求
めているか?

地域への
期待?

求めているものは
目の前に出されて
わからない。

求めている
ものを集約
できているか?

そもそも、
求めているもの
はあるか?

【B 班】

Q問:『若者(小学生～高校生)は

どこで過ごしているのか?』

地域活動、交流はあるか?

気軽に足を運べる場所があるか?

広報では若者は集まらない

公民館は全世代の居場所である、はず。

【具体的に過ごしている場所】

バイト、部活、野津庁舎(15時～17時頃)、塾、
観光交流プラザ(Wi-Fi あり。勉強できる)Q問:『情報が多くてやりたいことが探せない。達成
感を探すには?』きっかけから横に広げていく(地域・保護者・子ども)
昔は自分でやりたいことを探していた。ネットがないた
め動くしかない。今はスマホで何もかも連絡がとれるので、学校でのつ
ながりがない。

多様性、多様性で可能性を見いだせないのでは?

【具体的案】

素晴らしい体験を実体験していく(皆ですること)

団体同士のつながり

学びの場に先駆けての準備

指導・強制は×、経験・提供が○ → 共感・自発性へ

B班

バイトして
いる。・部活で過
ぎている。・野津庁舎
によくあつて
いる。15時/17・塾で過
ぎている。・観光アラガ
2F Wi-Fiあり
勉強できる若者はどこで"過"して
いるのか?
(小学生～高校生)きっかけから
横に広げていく
(地域・保護者・子ども)
いろんな体験を
できる場所を広報では若者は
あつまらない
公民館は全世代の
居場所である、はず。地域活動・交流
気軽に足を運べる?

塾で過ごして

「情報が多すぎてやりたいことが
見つからない。達成感も探せない」～ きっかけから横に広げていく
(地域、保護者、子ども)

・子どもがやりたい事は何か?

昔は自分でやりたいことを探していた。
ネットがないので、動かない。・学校でつながりがなくなって
きている。
(スマホで何らかの連絡は出る?)・多様性、多様性で可能性
を見いだせない。

・大会でもチームに選んでいる。

・大勢

素晴らしい体験
を実体験して
提供していく
(皆ですること)学びの場。先駆けての準備
指導・強制は×
経験・提供が○
共感・自発性達成感・共感・
協力・必要
小・中・高・大・社会
団体同士のつながり

別紙

2024.10.23 第3回社会教育委員会議(研修)

班別 グループワークまとめ

【C 班】

💡問:『若い世代はそもそも学びに興味があるのか』

【現状】

何を学びと感じているか、多岐にわたり選択肢が多すぎる。自ら興味がある情報だけ持っている。→学びではあるが、バーチャル上の情報。身近な学びの場に足が向いていない。人とのつながりの良さを経験したことがない。

【学び・広報について具体的案】

体験すること、同世代以外の交流の場、
講演家（講演者）による講演（講話）、
インスタをつくりリールを流し続ける広報

○問：『どのように学びのリアルな場(機会)を提供すればよいか？』

人の役に立つ、自分が誰かのために何かしたいと思う感情が薄い。

仮想（バーチャル）でなくリアルが求められる。

社会体験の場を提供する。学校と地域との交流

【具体的案】

農泊体験、地元の祭り

バイト

企業がボランティアを募る

